

今日から使える!

Classroom English

Lesson 4

活動の指示の表現②

Hello! 新年度の授業が始まりましたね。このコーナーで今までに紹介した表現を使って、初回の授業から楽しく始められたでしょうか。I hope so! これからもさらに使える表現を増やしていきましょう。

今回は、ゲームをするときに役立つ表現を中心に紹介します。もちろん、参考になる表現を学ぶことは大切ですが、表現を知っているだけでは、いざというときにさっと出てこないものです。クラスルーム・イングリッシュを覚えるためには、「習うより慣れよ」の気持ちで、頻度の高い表現から授業の中で積極的に使ってみることをおすすめします。間違えることも、覚えることにつながります。

ただし、授業の準備をするときは、正確さを意識しましょう。例えば、英文を見ながら声に出して読む、英文を見ずに授業の場面をイメージしながら声に出す、使いたい表現を正しく書き写すなど、アウトプットの練習をたくさんしておきましょう。

Let's play a game!

ゲームをしましょう!

文部科学省が作成した補助教材『Let's Try!』や『We Can!』には、「Let's Play(ゲームをしよう)」という活動があります。ポインティング・ゲームやキーワード・ゲームなどを行うときは、「Let's play Pointing Game!」のように名前を入れればOKです。特に名前がない活動のときは、この表現でゲームをすることを伝えて盛り上げましょう。同じゲームを繰り返すときは、「Let's do it again.」、続けて新しいゲームをするときには、この表現にnewを加えて、「Let's play a new game!」や、aをanother(他の)にして、「Let's play another game!」と言うことができます。

Watch me.

私を見てください。

ゲームの説明をしようとするとき、英語は複雑になります。日本語で説明してもわかりにくいときがあるので、モデルを見せるといいでしょう。「見る」というと、lookも思い浮かびますが、こちらは「Look at the card.」(カードを見なさい)など、ものや人に視線を向けてほしいときに使います。watchは「動いている対象を見る」という意味で、ここでは「私(の動き)を見る」なので、watchが自然です。ALTの先生と二人以上でモデルを見せるなら、「Watch us.」になります。

菅井幸子 すがい さちこ

株式会社イーオン 東京本社法人部 学校教育課 教務コーディネーター

岩手県生まれ。大学卒業後、イーオン入社。

2007年より教務課トレーナーとしてイーオンスクールの教師育成に従事。15年に学校教育課の立ち上げに参加し、全国の教育委員会や学校で、教員向けの英語指導法や英語力アップの研修などを行っている。

Any volunteers?

やってくれる人はいますか?

手伝いを頼むときや、代表して何かをしてもらいたいときに使える表現です。手を挙げながら笑顔でたずねてみましょう。「やってみたい!」と立候補してくれた児童がいたら、「Thank you for your help.」(お手伝いありがとう)と伝えられると、その児童もうれいすし、他の児童に「次は僕が!」と自主性を促すきっかけにもなります。なお、volunteersは日本語の「ボランティア」とは違い、「ラ」ではなく「ティ」にアクセントがきます。複数形のsも忘れずに言いましょう。

Time's up.

時間です。

活動を終わるときに時計を指さしながら、残念そうな表情で言うと意味が伝わりやすいでしょう。「タイムアップ」や「タイムオーバー」は日本人どうしでは通じますが、造語なので、ALTの先生にも伝わるこちらの表現を覚えましょう。また、短い表現だからこそ、英語らしい自然な音に気が付きたいですね。「タイムズ・アップ」ではなく、Time'sの語尾のsと次のupのuをつなげます。upのpも母音をつけて「プ(pu)」にならないようにしましょう。

Is everything clear?

わかりましたか?

児童にゲームなどのモデルを見せて、理解できたかを確認するときに使える質問です。「Do you understand?」とたずねることもできます。clearは「明らかな、はっきりした」という意味の形容詞です。日本語では「大丈夫ですか?」とたずねて理解を確認することもできますが、これをそのまま英語に直して「Are you OK?」としてしまうと、少しニュアンスが変わってきます。「Are you OK?」は、例えばALTの先生の表情がすぐれないときや困っているときの「大丈夫ですか?」という声かけに使いましょう。

★ここがポイント!!

「Time's up.」の説明にもありますが、単語の終わりに母音がついた読み方にならないように気をつけることで、英語らしい発音を目指しましょう。「Any volunteers?」の最後のs(音はz)も、ズ(zu)にならないようにします。「Time's up.」と「Is everything clear?」のisも同じ音ですが、こちらは、upやeverythingといった、母音で始まる単語が続くので、その音をつけて読むとより自然です。ネイティブスピーカーの発音を目ざすのではなく、英語として伝わる発音を心がけましょう。